

大野 立志 議員



(二門一答方式)

①第2次大洲市総合計画基本構想

②大洲市まち・ひと・しごと総合戦略

③肱川水系河川整備計画

第2次大洲市総合計画基本構想について

問 人口減少社会に対応する都市のあり方として、土地利用基本構想のもと、コンパクト・プラス・ネットワークによるまちづくりの重要性をうたわれているが、コンパクト・プラス・ネットワークの理念及び本市の構想について、どのようにお考えか。

答 本市においても、コンパクト・プラス・ネットワークの

考え方のもと、中心市街地の計画的な整備や各地域拠点、中山間地における小さな拠点の形成を図るとともに、地域公共交通網や情報通信基盤の充実などにより、人口減少時代に対応できる都市づくり、集落づくりを目指していきたいと考えています。

なお、具体的な構想については今後、明らかにしていきたいと考えています。

大洲市まち・ひと・しごと総合戦略について

問 本市のまち・ひと・しごと総合戦略における基本目標2の「次代を担う人を産み育てるまちづくりについて」の中で、出合いの場の提供による市内出合いイベント参加者数を175人から350人に増やすことを目標に設定されているが、出合いイベントを開催すると、イベント実施の方法によっては必ずマッチングカップルが成立する。イベント後、そのマッチングカップルがお互いを理解し合い、成婚となって初めて施策が生かされることになると思うが、他市の先進事例も参考にし

て、いま一歩踏み込んだ対応とまらないものか。

答 本市としても、出合いイベントに対し参加しやすい仕組みづくりを力を入れていきたいと考えており、引き続き、えひめ結婚支援センターや市内の出合いイベント実施団体との連携を深め、全国的な成功事例なども参考にしながら、人を産み育てるまちづくりを推進していきたいと考えています。

肱川水系河川整備計画について

問 山鳥坂ダム建設計画発表以来、県道小田河辺大洲線の水没地区の改良は未実行のままとなり、不便な状況のままである。特に、交通インフラの未整備地区の大きな影響を受ける河辺地域は、地域振興においても大きな不利な条件を抱え、地域の展望にも制約を受けている状況に耐え忍んでおられる。付け替え県道が完成後、また、ダム建設事業完了後の河辺地域の具体的振興策をどのようにお考えか。

答 このことについては、山鳥坂ダム水源地域整備計画の対象区域外となっていますが、現在策定中である第2次大洲市総合計画

を基本として、山鳥坂ダム地域振興基金の活用も検討しながら、地域資源の有効活用など、特性を生かした振興策を検討していきたいと考えています。

また、地域のさまざまな団体と連携し、肱川流域が一体となった地域振興策を目標に、関係地区の活動に対しても積極的な支援を図っていきたいと考えています。

山鳥坂ダム完成イメージ図

